

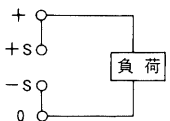
# 取り扱い説明

## 1. リモートセンシング端子

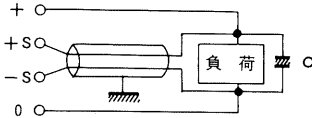
出力端子と負荷をつなぐ導線が長くなると電圧降下を発生し負荷端での電圧が下がることになります。この様な場合この電圧降下の補償を行う為に使用します。

- センシングの線(+S、-S)は外部からの誘導等による影響を防ぐ為シールド線を使用して下さい。
  - (+、+S)(0、-S)端子は出力端子部分でショート・バーにて短絡してありますがリモートセンシングを行った場合はショート・バーを外して下さい。
- 尚リモートセンシングを行わない場合は必ずショート・バーは付けたままで使用して下さい。

リモートセンシングを行わない場合



リモートセンシングを行った場合



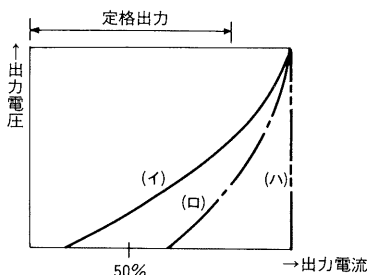
- センシングの配線方法は必ず入力を入れる前に行って下さい。
- メインラインのドロップは出来るだけ片道0.3V以内におさえて御使用下さい。

## 2. 過電流保護回路(O.C.P) 自動復帰型

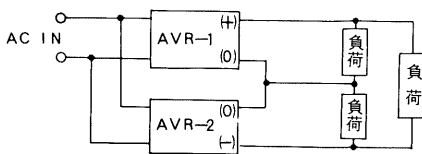
負荷の種類、使用方法により動作特性を分けておりますので負荷に合った特性をお選び下さい。

### 主な使用負荷

- (イ)フの字特性——抵抗、電子回路等
- (ロ)フの字特性——ランプ・モーター等の様に動作始動時に定格電流の数倍の突入電流を必要とする負荷。
- (ハ)垂下特性



(イ)——フの字特性  
(ロ)——フの字特性  
(ハ)——垂下特性



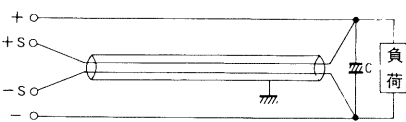
- 2台の電源を直列で使用の場合
- 標準品は(イ)の特性に設定してあります。
- (ロ)(ハ)の特性に関しては注文の際に負荷の種類を必ず御指定下さい。
- 出力電圧28V以上の製品で特性が(ロ)、(ハ)のものに関しては原則として定格出力電流の70%以下で御使用下さい。
- (ロ)、(ハ)の特性の製品に関しては長時間短絡を保障出来ない場合があります。
- (+)(-)2回路電源(W型)に関しては直列接続用に調整してあります。

## 3. 過電圧保護回路(O.V.P) 強制短絡型(クローバー型)

制御用パワートランジスタの故障(C-E間導通)等により出力電圧が上昇した場合SCRにより出力を強制短絡し負荷の破損を防ぎます。又何らかの原因により出力に一時的に過電圧が発生した場合もO.V.Pが動作する事がありますがこの場合は入力を一度OFFし約30秒位してから入力をONしますと出力は復帰します。

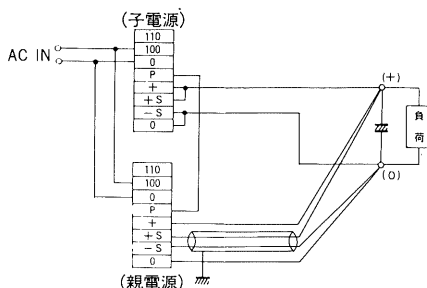
## 4. 負荷端コンデンサー挿入について

負荷が電源より離れていて長く導線を延した様な場合電源出力は発振の誘導を受けたり回復特性が悪くなったりします。又入出力のスイッチのチャタリングによって過電圧保護回路が動作する場合があります。これを防ぐ方法として負荷端に100~1,000 $\mu$ F程度の電解コンデンサーを挿入して下さい。



## 5. 並列運転(P端子付製品)

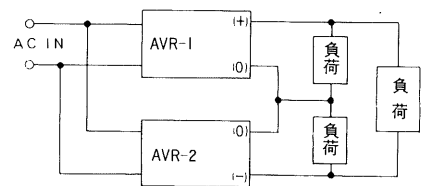
同一製品を使用し、並列台数は5台以内で使用して下さい。



- 任意の1台を親電源として出力電圧微調整及びセンシングを行い他の電源は子電源とし、出力電圧は最小(左回転最大)にして下さい。
- 子電源のショート・バーは外さないで下さい。
- P(平行)端子は必ず互いに結線を行って下さい。
- 過電圧保護回路付の電源を並列に使用の場合は御連絡下さい。

## 6. 直列接続

定格出力電流の異なる製品を使用の場合は電流の流れ方を確認の上定格値を越えない様に御注意下さい。

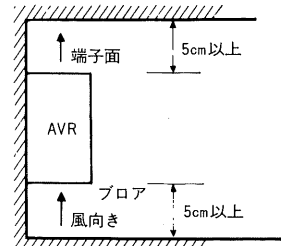


## 7. 取り付け場所及び取り付け方法

(強制空冷方式型)高温、高湿場所はさけ出来るだけ風通しよい粉塵の少ない所を選んで少なくともブロー、及び端子面より5cm以上離して取り付けして下さい。

取り付け方向は水平面、垂直面いずれも取付け可能ですが送風が端子取付面から出る為、端子取付面が下方とならない様に取付けて下さい。ブローの効果を上げる為周囲の板金等にできるだけ換気用の穴をあけて下さい。

垂直取付の場合



(全製品) 出来るだけ高温高湿の場所はさけ、風通しのよい粉塵の少ない場所に設置し密閉されない様板金等にできるだけ換気用の穴をあけて下さい。

## 8. 入力側にヒューズを御使用の場合

普通溶断ヒューズ

入力電流(定格負荷時)の3~4倍  
遅延型ヒューズ(タイムラグ)

2~3倍

上記の様なヒューズ容量を御使用下さい。